

2024年1月15日

2023年度 自己評価 結果及び対策・改善報告書

評価項目	評価結果 及び 対策	改善結果（進捗状況）
I、環境・体制整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活空間の環境については、新型コロナウイルスが5類へ移行後も、消毒等必要な感染対策をとりながら、安全で過ごしやすい環境整備に努めている。 ・ 施設内の整理整頓や清掃等については行き届いていない部分があり、職員への呼びかけ等、係が中心になって対策したが、改善に時間がかかっている。 ・ 職員体制については、個別対応等が必要な場合に備えて、特別支援やフリーの職員がフォローに入るようにしており、基準を上回る配置をしている。 職員の退職に伴う体制変更があり、保護者様には不安を与えてしまった。療育体制が滞ることのないよう、早急に人員確保を行うように努めた。 今年度も数名のボランティアさんの協力もいただくことができ、こどもたち、職員にとって大きな力となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整理整頓しやすいように、動線に合わせて置き場を変更する等、ハード面での対策を実施した。物品が使いやすい環境を作ることで、整理整頓が継続できるよう今後も努める。 ・ 職員体制については、基準以上の配置は行っているものの、職員の退職により体制変更し、療育に支障がないよう努めた。 今後もボランティアさんの受け入れを継続的に募り、主活動や昼食時など、より支援の必要な時間帯へのサポートを広げていく。
II、業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の年間計画を作成し、職員の経験年数による階層別研修を法人内で開催し、学びあいの場とした。また職種別のミニ勉強会等、必要な知識を定期的に学ぶ機会を設けた。その他施設内勉強会や虐待防止事例検討会など全職員が参加して学び合う機会を持ち、年間を通して多くの勉強会に各職員が参加した。「学んだことを療育で実践する」ことは継続課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も職員の資質向上、自己研鑽の場、職員同士の意見のすり合わせの場として研修を活用する。今後は学んだことを実践の場で活かすための体制を強化したい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ びゅあセンター磐田内の他施設との業務分担や共同作業で、業務分掌の削減や業務内容の効率化を図った。また新記録システムやコードモン等のICTシステムを新たに導入し、移行できる業務の見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置されている委員会や会議体を通して、施設を超えた話し合いをする中で、効率的な業務分担につなげる。またICTシステムを活用した、更なる業務改善を見直す。
<p>III、適切な支援の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客観的な発達スケールを使用し、発達段階を評価、クラス編成を行っている。また応用行動分析に基づいた評価スケールを新たに導入し、児童の発達段階を定期的に評価している。 ・ 年間目標、月案、日案の連動性を含め、ねらいに沿った立案について再度確認しながら進めた。発達段階に合わせた活動や、支援内容が計画に組み込まれた内容となっている。取り組み後の反省を次に活かすことについては、更に深めたい。 ・ 「保育所等訪問支援担当職員とクラス職員の情報共有」や「クラス担任が園訪問に同行する機会」を定期的に実施し、療育だけの姿ではなく、園生活も含めたお子さん一人ひとりの生活に寄り添った支援が提供出来るようにした。また、必要時は特別支援担当職員が医療連携を行った。 ・ 給食担当による偏食対応食や絵本給食を実施。絵本給食に連動した制作活動を取り入れることで、「食」への関心、「食事を楽しむ」ことに少し近づけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 半期に一度、発達スケールの確認を行うとともに、保護者様への説明を丁寧に行い、安心して通えるようなクラス編成に努めている。 ・ 根拠を持った活動や関わりができるよう、今後も継続して職員の資質向上に取り組む。保育所等訪問支援職員や特別支援担当職員、給食担当職員など、多角的な意見も取り入れ、必要な時には話し合う時間を確保しながら、様々な面からお子さんの成長をサポートする。個々のカンファレンスにおいても、関係機関の意見を取り入れていけるよう、必要な連携体制を整備していく。
<p>IV、関係機関や保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就園や通所頻度変更、就学先の共有等、園や学校等の関係機関とサービス担当者会議を実施し、積極的な連携を図っ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもたちのライフステージの変化において、切れ目なく支援が継続出来る

	<p>た。児発管、クラス担任、保育所等訪問支援担当、相談支援事業所等、児童に関わる多くの職員が出席することで、保護者様の安心や関係構築にも繋がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所等訪問支援担当に、放課後等デイサービスはなえみ磐田の職員が兼務することで、はなえみ磐田と連携したサポート体制が整った。保育所等として LD 等通級指導教室との連携を行い、移行支援としてタイムリーな支援に繋がった。 ・ 近隣園との合同防災訓練や、未就園児を対象とした交流会を実施した。また、隣接している「子育て総合支援センターのびのび」に協力を依頼し、季節の行事に合わせた「おはなし遊びの会」を開催した。こどもたちの反応は良く、季節の行事を楽しむ機会となっている。 	<p>よう、今後も保護者様の意向を丁寧に確認しながら、関係機関とのこまめな連携を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣園との交流を毎年継続する中で地域との「つながり」が構築されてきた。今後も地域との関係作りを大切にし、地域の中での育ちをサポートする。
<p>V、保護者への説明責任等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月に新年度説明会、年3回のクラス座談会を実施し、クラス目標の共有や活動の様子等普段の姿をお伝えした。動画を活用した様子の共有は「分かりやすい」と好評を多く頂いた。 ・ 新型コロナウイルスが5類となり、行事の参加制限が緩和された。ご家族での参加や施設内での送迎受け入れを実施することを通して、お子さんについての情報共有がスムーズに出来るようになった。日中一時支援をご利用の保護者様には、連絡ノートでのやりとりが主となり、毎利用時療育活動の様子を対面でお伝えすることは送迎時間に個別性があり、体制を整える事が難しく、課題として残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も ICT を積極的に使用し、保護者に分かりやすい方法で、活動の様子をお知らせする。 ・ 日々の送迎時のコミュニケーションを大切にし、クラス職員、訪問支援員等、様々な方面から保護者様と関わる事で、お子さんの姿の共有だけではなく、保護者様の不安や悩みも共有できるよう努める。また日中一時支援ご利用の保護者様とのコミュニケーションにおいても、積極的なお声掛けを意識し、必要

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所等訪問支援の報告については、園での様子を保護者様と共有することで、お子さんの成長を一緒に感じ、悩みや不安を共有し、対応方法を検討することが出来た。 ・ キラキラタイム（担任との個別面談）とグループキラキラ（テーマに沿った懇談会）は年間計画にてお知らせし開催した。また、ご希望があれば面談を組み、出来る限りタイムリーにご相談受付ができるようにした。様々な観点からお子さんの成長を共有出来るよう、聞き取り項目を設定した書式を作成したが、保護者支援においては、職員の相談支援スキルの向上が求められる。 	<p>時には面談等を含め対面でお話をする機会を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者面談等の場面では、お子さんの成長の共有だけではなく、保護者様の困りごとや就学先等の悩み、活動内容や支援に対するご意見等、様々な内容をお話する機会となっている。いただいたご意見に関しては真摯に受け止め、より充実した療育を提供出来る施設となるよう、対応について検討し、努力する。
<p>VI、非常時等の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法定の防災訓練、避難確保訓練、不審者訓練等、訓練と振り返りは年間計画に基づき実施した。繰り返し行っているため、訓練内容が恒常化していることは課題として残る。 ・ 総合防災訓練では、消防職員にマニュアル等の確認やご助言をいただき、すぐに対策をとった。現状に合った内容とするにはまだ改善が必要な部分があり毎年更新が必要。 ・ 災害時や感染症に対応したBCP（事業継続計画）を作成した。全職員への周知や、BCPに基づいた訓練を実施し、策定した内容が活用出来るか見極めることについては、次年度の継続課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は午睡時、お散歩時など様々な場面を想定した訓練や年齢に応じた訓練内容を検討し、有事の際に命を守る行動がとれるようにする。 ・ 出来る限り多くの保護者様に参加していただけるよう、日程や時間等については検討し、引き渡し訓練を計画する。避難訓練の様子を保護者様に見ていただく機会として、今後は写真等を活用する。 ・ 防災マニュアルについては、毎年内容を見直し、最善の対策がとれるように備える。

(まとめ)

今年度は新型コロナウイルスが 5 類となり、「行動制限」ではなく、感染対策に留意して、様々な活動をクラスや施設全体で、お子さんだけでなく保護者様同士が交流しながら参加できる体制がとれました。保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで実現できたものと感謝いたします。この数年で希薄となってしまった人との繋がりを、これから再び繋いでいけるよう、今後も保護者様の想いに寄り添い、日頃からの関わりを大事にしていきたいと考えております。

また虐待防止対策としての取り組み（勉強会、毎月の確認）や 12 月から導入されたコドモンにて登降園管理等、お子さんを安心安全にお預かり出来るよう、危機管理の充実にも努めました。様々な事故や災害等が予想される中、それを未然にまた最小限に抑えるための「命を守る取り組み」については、「小さな気付き」からの対策を継続して取り組んでいきます。

次年度、児童発達支援センターは、地域の発達支援の中核としての役割を担うよう国から方針が打ち出されました。磐田市行政と連携体制を整え、地域と共に歩むことができる施設運営と、質の高い支援が提供できる職員育成に努めていきたいと思っております。